資 料 3

令和元年度（2019 年度）
鎌倉市地域福祉計画
地域懇談会報告書

令和元年８月
鎌倉市

第１章　地域懇談会の概要

１．地域懇談会の目的

鎌倉市地域福祉計画の策定の基礎資料とするため、各地域別の現状・課題等について参加者と意見交換を行うとともに、参加者の意識醸成を図ることを目的に実施しました。

２．地域懇談会の進め方

地域懇談会は各地域にて、以下のとおり開催しました。
今後、地域懇談会での意見を参考としながら、鎌倉市地域福祉計画に反映していきます。

平成 31年3月策定の鎌倉市社会福祉協議会の地域福祉活動計画である「かまくらささえあい福祉プラン」の作成の際に、アンケート調査及びヒアリングを通して得られた課題のうち、以下のテーマを中心に各地域において、参加者と意見交換を実施しました。

【かまくらささえあい福祉プラン作成時に得られた課題】
①市民が生活していく中で、気軽に相談できる体制づくり。
②市民が地域福祉活動を行う上での、人材と活動拠点の確保。

３．地域懇談会の概要

（１）開催日・参加者数

日　時	会　場	地　域	参加者数
7月31日（水）10:00-12:00	腰越学習センター・第1集会室	腰越地域	11人
7月31日（水）13:30-15:30	腰越学習センター・第3集会室	西鎌倉地域	14人
8月　6日（火）10:00-12:00	福祉センター　　・第3会議室	鎌倉地域	24人
8月　6日（火）14:30-16:30	深沢学習センター・第3集会室	深沢地域	19人
8月　8日（木）14:00-16:00	玉縄学習センター・第2集会室	玉縄地域	14人
8月　8日（木）18:00-20:00	大船学習センター・第3集会室	大船地域	17人

（２）地域懇談会の方式

当日の参加者数に応じて1～2のグループに分かれ、計画説明の後、ワークショップ方式で実施しました。課題や取り組みのアイデア抽出はKJ法により行いました。
懇談のテーマは、以下の 2 つを中心として行いました。
【テーマ1】市民が生活していく中で、気軽に相談できる体制とは
【テーマ2】市民が地域福祉活動を行う上での課題（人材・場の確保など・・・ほかにもあれば）

４．地域懇談会の実施内容

（１）参加者の地域福祉に関する意識や考えについて書き出す

地域福祉計画の説明に基づいて、参加者の地域福祉に関する意識や日頃感じていること、起きている事柄などを以下の2つのテーマを中心に、自由に付箋紙に書き出します。

【テーマ1】市民が生活していく中で、気軽に相談できる体制とは

【テーマ2】市民が地域福祉活動を行う上での課題（人材・場の確保など・・・ほかにもあれば）

（２）内容を説明しながら、模造紙に貼り付ける

付箋紙の内容を班の方々と共有しながら、模造紙に貼り付けていきます。

（３）付箋紙の内容を分類し、見出しを付ける

付箋紙の内容説明と模造紙への貼り付けが終了したら、付箋の内容が似ているものを分類し、確認しながら話し合い、そのグループに見出しを付けます。

５．当日の流れ

（１）地域懇談会のプログラム

地域懇談会は概ね以下の流れで進めました。

時間	内容	流れ・ポイントなど
00～30 分 （30）	あいさつ・説明 ・地域福祉計画の意義・概要・手順など	あいさつ、先生紹介（市） 計画について（川上先生） ・要点、目的、ほしい意見などをわかりやすく紹介 ・グループ討議につなげる
30～100 分 （70）	グループ討議 ・グループに分かれて地域課題などについて意見だし、意見交換	討議の進め方について説明 ・自己紹介（全員） ・2つのテーマについて紹介 ・各自の意見を求める、引き出す ＊模造紙、付箋紙、サインペン、マーカー数色
100 ～120 分 （20）	まとめ ・グループ発表・感想 ・意見等の整理	グループごとに発表 ・グループの代表者が行う ・整理した意見の紹介（簡潔に） ・できれば計画の向かう方向などについてイメージを見つける
120 分	閉会・あいさつ	・意見の取り扱いなど ワークショップで出された意見は取りまとめたものをホームページで公開する。

第２章　意見のまとめ

１．地域懇談会であげられた意見のまとめ

地域懇談会での意見を整理するとともに、取り組むべき課題をまとめました。

意見のとりまとめにあたっての考え方は以下の通りです。

・昨年度、鎌倉市社会福祉協議会が行った地域福祉活動計画策定の際に、とりまとめた地区懇談会での意見整理の項目に従ってそれぞれの意見整理を行いました。

・その項目は以下の 6 つです。

①担い手について

②活動場所について

③地域の活動について

④情報の共有について

⑤災害時について

⑥市・市社協について

昨年度行われた地区懇談会からの意見と今回の地域懇談会での意見はおおむね同様でした。

地域懇談会で設定したテーマの中で、特に多くの意見があった「相談窓口」については、「市・市社協について」の項にその取りまとめを挿入しました。

（１）担い手について

１．現状・問題点

◆人材不足、人材の高齢化

・地域参加、社会参加できる場、チャンスが減っている
・後継者がいない、地域デビューの方法が分からない
・民生委の仕事が多すぎる、まじめな人に集中している
・地域活動の担い手が不足している
・正規で働いている人は地域活動への参加は難しい
・役員、担当者は欠員だらけ、子ども会やボランティアグループ役員のなり手が少ない
・地域との関わりが活発なのは、子どものいる家庭
・活動を知らない人が多い、知るソースが少ない
・3人の所を3年間2人でやっていて、後任者がいない
→地域活動を支える高齢の方の負担が大きい
・コミュニティが希薄になってきた
・若い人たちの関心が少ないような気がする

◆情報共有、連携がうまくいっている地域もある

・民生委として困った時の窓口は包括
・民生委が誰か分からないので相談できない
・包括のアウトリーチ型の支援スタンスが良い

２．課題

■多彩なテーマ設定で参加の機会をつくる、増やす

・男の料理教室、その後の呑み会参加、サロンなどの実施
・まつり等子どもを含めた参加しやすいイベントを開催し、顔をつなぐ機会を増やしていく

■地域情報の共有化と役割の明確化

・横断的な話し合いの場をつくる

（２）活動場所について

１．現状・問題点

◆活動する場所がない

・イベントの開催場所がない
・地域の活動拠点、場がない、あっても使いにくい
・見守り、その他の会合の場所がない
・施設に駐車場がないので車が使えない
・参加料を取ると人が来ない
・空き家を活用していく
→住んでいる家の空いている部屋を貸す方がよいかも
→自治会館が欲しい、集まる、話す、たまり場として

２．課題

■活動の場、機会をつくる

・空家等の活用によりサロンや食堂などを活動の場にしていく
・子どもの活動、見守りを通じた地域とのつながりを拡大していく

（３）地域の活動について

１．現状・問題点

◆活動が活発な地域もある

・活動の自主グループを作った
・個人宅の駐車場にベンチを設置
・困った時は、今の自治会のメンバーが話しを聴いてくれる
・夏祭などで他の団体と連携している
・場所（地区）によって世代交代がすすんでいる
・子ども、高齢、障がい等の分野を越えてのフォローがある

◆入口、キッカケが必要

・きっかけが必要
・老人会、子ども会、自治会をつなぐ組織が必要とのことであいあいの会を始めた、夏祭りは合同で開催
・若い人（特に現役男性）の参加しやすい環境をつくる
・話す機会が減り付き合いのない隣近所、独居高齢者が多い
・高齢化により自治会の役員ができなくなる
・高齢者は急に動けなくなることがある
・自治会役員の高齢化、回覧板の持ち回りも大変
・班長は交替するがボランティアはずっと続くので大変

◆多様な活動が地域内交流を促している

・子供会、老人会、魚釣り大会、体操教室などを通じて、若い世代の参加を促している
・高齢化しているが、弁当の配達をしている人がいる
・規約なし、会計なし、面倒なことを外して活動している
・出前コーヒーを各地域へ提供している
・予算も場所もなく公園ではじめた、青空だから雨天は中止
→健康第一、ポール、ウォーキングが定着

２．課題

■多様な取り組みで地域活動を広げよう

・子どもつながり、イベントで親同士もつながる
・誕生日、敬老の日のプレゼントをキッカケにする
・ボランティアバンクをつくる
・小学校や学童のおやじの会との連携
→若いお父さんが出てくる

（４）情報の共有について

１．現状・問題点

◆情報も縦割り

・行政は地域活動情報をあまり持っていない、目が地域を向いていない、社協のほうが良く掴んでいる
・民生委員はつなげる役、解決できるところへ持って行く
→民生委員を町内会が後押ししている地区もある
・地域で民生委員だと目立つように心掛けている、相手が声をかけやすいように
→頼りないのか不信感か、なかなかドアを開けてくれない
・民生委員は包括とつなぐ役割も
→情報共有に個人情報条例の壁がある
・要支援の方の家族（子ども）は、地域や民生委員とのつながりを知らない
→障がい者と民生委員が互いにどこにいるかわからない
→困りごとを持っている人の情報が知りたくても見えない
・高齢者は包括や民生委員に相談しに行くことが多い
→要支援の方は民生委員を知らないことが多い
・介護保険制度ができてボランティアの利用が減った

◆大事な人的な交流

・福祉相談員と民生委員との接点、交流の促進
→自分の地域にどんな人がいるか知る努力も必要
・包括、民生委員、他グループとの情報共有を促す
→障がい者、相談員、専門員とをつなぐ、その情報共有が必要
・プチボランチア、子どものつながりを活かしていく
→地域で作る市民レベルの人材バンク
・気軽に「できます」掲示板
→「こういうことができる」等の人材情報の提供

２．課題

■ネットや電話も活用し若い世代にもアピール

・地域情報の共有システムを作る（地域社協などで）→なんでも 110 番の開設

・シングルマザーや周りに助けがない人で窓口に相談に来ない人の声を拾う方法を検討
→SNS などを活用した多様な情報発信

（５）災害時について

１．現状・問題点

◆要支援者の登録をもっと正確に

・要支援者の存在を公表することは（本人の）合意がいる
・地区社協にボランティアリスト、広く活用したい
・要支援者、一人暮らし高齢者リスト作りも丸投げ、そして機能していない
→リストが災害時の情報活用に活かされていない
→防災マニュアルは地域が先行して作成、市は後追いに
・障がい者情報は家の中に入り込んでいて把握しにくい、結果防災リストに反映されない
→家族は知られたくないから、知らせないこともある
・障がい児を公に見てもらうことが当然と言う若い親もいる
→「子どもを殺して自分も死ぬ」という問題を抱える親もいて心配
・施設、学校が地域にあると「障がい」が見えるが、近くにないと見えない

◆わかりやすい使いやすいものを

・防災リストは冷蔵庫に貼って、だれもが見やすい解りやすいものを
→わかりやすい避難場所の明示
・地震、防災を巡る疎遠化、孤独化に対応し地域に安心安全の情報共有を図った
・情報、お知らせをポスティング、町内に入って扉を叩く

２．課題

■わかりやすく伝えて共有を

・高齢者にもわかりやすい災害情報の発信を促す

■要支援者への対応と災害時の対応体制の検討と確認

・行政内部での要支援者対応の検討による対応体制の確認
・要支援者対応案の地域との共有と地域ごとの対応、対策の確認、検討

（６）市・市社協について

１．現状・問題点

◆相談窓口が冷たい

・親身になってもらえる窓口、相談を受ける側が横につながっている
・窓口の人が冷たい、話をしっかり聞いてくれない
→気軽に相談できる窓口、優しい対応、対応フローの整備
→問題整理、引き継ぎシートを社協も作りはじめている
→助けを求めている声が十分拾えていない
・相談者の困り事と支援者の困り事が一致していないことがある
→包括は高齢者対象のため、子どもや障害のある方の相談にのれない

◆相談窓口の環境整備

・窓口はとなりの話が聞こえたり、顔が見えないようにしてほしい
・「生活 110 番」などでのワンストップ窓口をつくる
・地域のスーパーや人気のお店に定期的に相談員が配置される

◆敷居の低いワンストップの相談窓口を

・市がワンストップで受けて振り分ける体制
→担当窓口を呼んで同席させるようなしくみ

◆周知の時間が少なかった地域懇談会

・懇談会の周知の期間が短い、もっと早くすべき
→人が集まるイベントなどに日程を合わせる工夫ができたはず
→困っている側の意見を聞くというスタンスが見られない
・懇談会の持ち方に疑問、わからないことが多すぎる
・地域福祉計画と言われても何をしたら良いのかわからない
・意見聴取の方法が悪く、意見が反映されないので諦めている

２．課題

■入りやすくわかりやすい総合相談窓口の設置

・総合的、横断的なマネージメント機能があり、市民情報も持っている複合的な窓口
→一定の権限を持ち、法的な機能も備えている
・支所にも身近なワンストップ窓口を→課題の対応ができる窓口へ
・コールセンターの再整備
・相談コーナーでコーヒーやお菓子をだしてみる
・医者、弁護士他専門職との調整、協力体制を組む

■さらにわかりやすい行政計画や取り組みの進め方

・市の具体的な提案を提示されると考えやすかった
→計画をどうすすめるのかがわからない

第３章　資料編

１.2019 年懇談会の記録

①腰越地域

日　時：令和元年（2019 年）7 月 31 日（水）　10：00～12：00
会　場：腰越学習センター・第 1 集会室

昔ながらの漁師町
新住民にもふるさと意識が生まれている

・見守りをさりげなく続ける力があり、町内会、自治会のネットワークも豊か
・戸別訪問でも警戒されない、昔からのつながりがある
・活動を通じて見守り、困り事の発見をしている
・民生委、町内会等のボランティア団体に責任感がある
・地域の伝統行事が続いており、自主的な活動や若い人たちの地域活動も活発
→空家活用で若い人がサロンをしている

それぞれの地域で見守りを個性的に展開

・民生委が誰か分からないので相談できない
→公平な声かけで困り事の情報を得ている（民生委）
・弁当手渡し、声かけからニーズを把握
・通信の手渡しで会うことで信頼につながる
・さりげない適度な見守り、片寄らない訪問
→転入者の多い地域は「つながる」努力が必要

昔よりは見えるようになった

・行政は地域活動情報をあまり持っていない、目が地域を向いていない、社協のほうが良く掴んでいる
・空き駐車場の活用
→個人宅の駐車場を介護事業者が活用できるシステムを作った～民有地のベンチ設置等へ

次の世代にどうやって伝えていくか

・地域参加、社会参加できる場、チャンスが減っている
・後継者がいない、地域デビューの方法が分からない
→地域にかかわる人、関心を喚起していく
→簡単なイベントなどを入口にかかわりを増やす
・介護が必要な人との接点がない
→活動者の支援体制つくる

生活の足をどう確保する？

・車の免許返納というが、その代替サービスがない
→福祉の視点での交通施策が必要

いくつかの問題

・財政難でサービスが低下、制度からもれる人が増えた
・週末は行政職員の動きが鈍い
・要支援者、一人暮らし高齢者リスト作りも丸投げ、そして機能していない
→要支援者リストの見直し、複数の町内会で共有？
→リストが災害時の情報活用に活かされていない

我がこと・丸ごとって何？

・どのように地域福祉政策がすすめられているのか分からない。
→行政に「我がこと・丸ごと」の視点があるのか？
・縦割りになっている行政サービスの狭間を埋めていく市の活動、市民のネットワークづくりも必要

地域、住民に丸投げしない、しっかり分担

・民生委の仕事が多すぎる、まじめな人に集中している
→協働、連携のスタンスが必要
・庁内連携は、副市長の担当部署があればできるか
・企業、商店などにも一定の役割を
→見守りやフィットネスクラブの「介護予防」など
・横の連携をまとめられるリーダーが必要

市民と行政をつなぐ地域包括

・行政も市民も横断的な取り組み、つながりが必要
→共生条例、地域共生課ができたのは評価できる
→これをどのように地域活動へ活かしていくかが課題

橋渡し、マッチングの必要性

・企業の社会貢献 CSR を市民ニーズにあわせていく
→市民と企業の協調を市役所が行う
→就業対策など企業の社会貢献を促進させる

ワンストップ窓口のあり方・考え方

・市民相談室に行くとたらい回しになる、ワンストップになっていない
・複数の相談をまとめて窓口に持って行きたい
→情報を持っている全庁的なワンストップ窓口の整備
→担当者を窓口に呼ぶシステムをつくる
↓
・総合的、横断的なマネージメント機能がある
・市民情報も持っている
→一定の権限を持ち、法的な機能も備えている

活動の場の確保

・弁当配布を行い、声かけ、見守りも賄っている
・地域活動の担い手が不足している
→若い人を引き入れる機会、場をつくる。
→SNS などを活用した多様な情報発信
・地域の活動拠点、場がない、あっても使いにくい
→空家等の活用によりサロンや食堂などの活動の場を確保していく
→子どもの活動、見守りを通じた地域とのつながりを拡大していく

Ａグループ

②西鎌倉地域
日　時：令和元年（2019 年）7 月 31 日（水）　13：30～15：30
会　場：腰越学習センター・第 3 集会室

地域包括がよく動いている

○地域包括のフットワークが軽く良く動いている

・民生委として困った時の窓口は包括
→多くの方を対象に様々な事業を行っている
→相談内容、状況など情報共有がとても良くできている
→地域に入って行こうとしている。
・包括によって対応が違うが、誰にでも相談できる
→包括主催なら参加してもいいと言う声がある
→包括のアウトリーチ型の支援スタンスが良い

○自治会活動も進んでいる

・活動の自主グループを作った。
・自治会の中で困った時は、現在の自治会のメンバーが話しを聴いてくれる
・（あいあい）夏祭などで、普段の活動では別々に行動している団体と連携している
・場所（地区）によって世代交代がすすんでいる
→世代交代によって、新しいやり方（ネット、HP など）が生まれている
・「子ども」「高齢」「障がい」など複数の問題を分野を越えてのフォローがある。

しかし問題も

○活動場所が少ない

・拠点となる場所がない。（地区社協）
・室内運動できる場所、スペースがない
・自治会の中でのたまり場がない
・場所によるが交通手段がない

○人材不足

・正規で働いている人は地域活動への参加は難しい
・役員、担当者は欠員だらけ、子ども会やボランティアグループ役員のなり手が少ない
・地域との関わりが活発なのは、子どものいる家庭
・活動を知らない人が多い、知るソースが少ない
・共働きで忙しい等でなり手がいない
→受けやすい仕組み、体制になると良い
・民生委制度が実情に合っていないのでは

○コミュニケーション不足

・高齢化により外出の機会が減り、住民間のコミュニケーションが少なくなった
・生活状況が変わって来ているので、今までと同じ活動内容を続けることは難しい。

○そもそもどうやって進めていくのか？

・地域情報が共有されていない
・行政区と中学校区他でゴチャゴチャしていて整理が難しい
・本当に横串になっていくのか
・地域共生の実感がない、具体的にどのようにすすめて行くのか
・自治会役員の一年任期の功罪がありそうだ。
・担当者が替わることでこれまで続けて来たことが無くなる例もあった
→引き継ぎが困難な場合もある、課題解決に至らないこともある

地域の困りごと

○入口、キッカケをつくる

・話す機会が減っている、きっかけが必要
→自治会館が欲しい、集まる、話す、たまり場として
・老人会、子ども会、自治会をつなぐ組織が必要とのことであいあいの会を始めた、夏祭りは合同で開催
・社協が地域に顔出しをしてヨコに広げて行く
・つないでくれる役割の人（点）を増やし（線）でつないで行く形が良い
・若い人（特に現役男性）の参加しやすい環境をつくる。

○空き家の活用

・空家、空き部屋の貸し借りに税の免除や補助制度を
→家は他人に貸し辛い。一回入ると出てもらいにくい
→家の貸し借りは親子でも難しいことがある

○つながっていくことを意識する

・包括、民生委員、サポーターは地域の核
→横断的につながって行くことを意識していく
・困りごとの駆け込み先は包括になっている。だから大切。
・民生委員間の相談は大事。

こんな取り組みを進めよう！

○多様な連携で取り組もう

・NPO で活動している団体はある
→集まり連携しながら役割を担っていく
・空き家を活用していく
→住んでいる家の空いている部屋を貸す方がよいかも

Ｂグループ

地域の問題と課題

・付き合いのない隣近所、独居高齢者が多い
→高齢者が多く外出時の足の問題が多い
・
→民生委、地域包括、地域社協の連携で問題を解決していこう
→解決までの伴走（フォロー）をしてくれる人が必要
・地区ごとの住民のニーズを拾う
→空家問題は行政主導で、再利用、拠点化などを進める

自治会の悩み

・自治会は 1,400 世帯、4,000 人の所帯
・部長会、地区長会、ブロック長会がある、自治会長は外交がメイン
・自治会長は 16 年に一度持ち回りで回ってくる、どうなんでしょう
・アパートの住人などは「仮住まいだから自治会には入らない」という人が多い

民生委員の悩み

・民生委の後継が決まらず、仲間の民生委に相談
・民生委の任務は広く大変という先入観がある
→民生委の活動の情報が伝えられておらず、訪問してもドアを開けてくれない
・地域からの相談で訪問しても、なかなか出てきてくれない
・3人の所を3年間2人でやっていて、後任者がいない
→民生委のことを知らず、どんなことをするのかわからないで心配している
→民生委の後任者について自治会に相談している

地域の問題は複合的

・相談に来れない人にどうアプローチしたら良いか
→個人の問題、高齢者、障がい者等の予備軍
→どんなことでも相談して良いという認識を広げる
・包括と民生委と連携して複合的な問題にスムーズに対応していきたい
→窓口を知らない、人に頼りたくない等なので訪問してまわるしかない

複合的な課題は横の連携で対応

・医療、医者がボランティア参加していく
→地域の協力者に過重負担がかかっている
・専門家を集めるのは行政の仕事
→行政と地域を結ぶ生活コーディネーターの役割大
・「ゴミ屋敷」などの相談に出かけても話しを聞いてくれないこともある
・仕事をしていない親子の高齢化は大きな問題、複合的な連携が必要
→複合的な問題をつなぎ、まとめ、解決して行く領域を広げた窓口が必要

解決の糸口は？

○財源も必要
・現状のマンパワーでは限界
→行政のバックアップ、財源が不可欠
・地域で支え合うための財源確保
→お金がないので地域で協力してくれではダメ
・民生委、包括センターの抱える「医療」、「高齢」、「障がい」の専門家協力と財源確保
→解決に向けての複合的な取り組み
↓
○総合調整窓口が必要
・医者、弁護士他専門職の調整、協力体制を組む
→各問題担当部署の壁を下げる仕組みをつくる

そして地域の役割も大切

○協力体制の構築
・民生委はなり手不足
→役割限定で協力体制を構築、ルール作り
・空家問題は行政参加で対応、制度的解決を目指す
・制度、情報、意識の壁はこれまでの仕組み上の欠陥
→問題が見えて来たのだから解決していこう！
→関係者はこの3つのハードル、壁をどうやって下げて行くのかしっかり検討

Ａグループ

③鎌倉地域
日　時：令和元年（2019 年）８月６日（火）　10：00～12：00
会　場：福祉センター・第 3 会議室

地域の困りごと

・高齢化により自治会の役員ができなくなる。
・高齢者は急に動けなくなることがある
→90 代の人が動けなくなったり、急に元気になったりする
・自治会役員の高齢化、当番をどうする
→年寄りばかりで回覧板の持ち回りも大変、同じ人の負担が大きい
・デイサービス、高齢者対応の若い担当者が少ない
・高齢者のゴミ出し、市には2万人の高齢者リストあるが「ふれあい収集」は 500 人と少ない
・班長は交替するがボランティアはずっと続くので大変
・週末のみのアパート使用はゴミ問題、防犯問題あり、この人たちは自治会に入らない
→ゴミ、防犯、防災等の問題をまとめる窓口

介護保険につなげるまでも大変

・ベテラン職員は対応する引出しが多くつなぎ先も良い提案できる、職員の経験、力量がカギ
→つなぎのリストに必要な情報が掲載されているか
・担当者の異動によって話が元に戻ってしまう
→自治会役員が替わることも引き継ぎの問題で大変
↓
・介護度、緊急度の評価の即事性と丁寧な対応が必要
・急に衰える人がいる。介護保険を取得するのに時間がかかる。
・介護保険のことなど包括センターを先行利用する。

相談窓口が冷たい

・親身に相談に乗ってもらえる窓口、相談を受ける側がヨコにつながっている
・窓口の人が冷たい、話をしっかり聞いてくれない
→気軽に相談できる窓口、優しい対応
→窓口ではすべてを解決できない、引き渡しが大事
→たらい回しにしない、つながる「シート」を作る
→問題整理、引き継ぎシートを社協も作りはじめている
・相談を受ける時、情報提供を受けてケアマネに伝えた後、相談者に返す。
→社協のシートにつながる、相談先のリストを作る
・自分の困りごとが整理されていない時、どこへ相談しに行けば良いわからないことがある
・相談時の組織のチャートはどうなっているのか

地域のプチ人材バンク

○15 若い世代のボランティアグループを作る
・プチボランティア、子どものつながりを活かしていく
→多くの人たちに協力してもらいたい
・気軽に「できます」掲示板
→「こういうことができる」等の人材情報の提供。
・地域で作る市民レベルの人材バンク

男性と高齢化

○一人暮らしの男性をどうする？
・一人暮らし男性を地域に引き出すにはどうする？
→男性は地域とのコミュニケーション、つながりが少ない
・リタイア世代の男性を地域デビューさせる。
→奥さんが背中を押す
→男性の社会的地位だったものが地域に出る時に邪魔になる
・男の料理教室、その後の呑み会参加、サロンなど
→試験的にはじめたことで男性参加が進むこともある
・「ふれあい収集」など認定条件を下げて男性の参加を呼び込む
・見守り隊やお助け隊に男性が参加すると勢いがつく

地域情報マップを活かす

○マップ作りをキッカケに多様な地域情報を収集
・防犯パトロールを月2回やっている
→防犯を共同で地域を回り、そのままたまり場へ集まる、そういう場へ行きたい
・見守りを希望するか否かを確認する
・地域の家族構成、家族の問題を町会と民生委員が把握する
・避難者リストを活用する。
・材木座の空家活用を進めたい

○町内会、子ども会でキッカケをつくる
・子ども夏休み教室（材木座）100 人くらい参加、世代交流へつながる
→子どもつながり、イベントで親同士もつながる
・誕生日、敬老の日のプレゼントをキッカケにする
・場所があって顔がつながっているので自治会が引継がれ若返りが続いている

Ｂグループ

盛んな地域活動

○多様な活動が地域内交流を促している

・子供会、老人会、魚釣り大会、体操教室などを通じて、若い世代の参加を促している

→顔見知りが増え、街で挨拶されることが増えた

→人間関係づくりにつながっている

→地域のイベントに来た若い親に声がけ

・市役所で障害者の相談を他の窓口に繋いでくれて最後まで一人の人が対応してくれた

・高齢化しているが、弁当の配達をしている人がいる

・慶弔ボランティア、見守りボランティア（北稲村自治会）

→地域の夏祭り等行事に招待される

→街で声をかけてもらえることが多くなった。「手伝いますか？」「ドアを開けてくれる」など

・規約なし、会計なし、レシートのみとし面倒なことを外して活動している

・立会人をやりたくて手をあげても、推薦人がないとやれないのはおかしい

↓

○地域活動の拡大に向けて

・ボランティアバンクをつくる

・小学校や学童のおやじの会との連携

→若いお父さんが出てくる

でも問題も課題もある

○人の交流、情報共有

・人材不足、人材の高齢化

→高齢者をあてにしても難しい

・コミュニティが希薄になってきた

・若い人たちの関心が少ないような気がする。

・つなぐ人がいなくなると繋がらなくなる

・坂・階段の往復などが身体的負担になってきた

・子ども会の役員をやるのが嫌で、子どもの参加を止める親がいる

→家仕事で手一杯で子どもの面倒もみられない

→子ども会館の廃止で子供が行ける場所がなくなる

・弁当配達をできる人の高齢化

・掃除に参加する人が限られている

・市も自治会も人が変わると引き継がれない。

・民生委員はわかっているが、動きはわからない

・自治会館が必要だと言い続けているのにできない

↓

○場所がない

・イベントの開催場所がない

・見守り、その他の会合の場所がない

・施設に駐車場がないので車が使えない

・参加料を取ると人が来ない

○ボランティアも増えない

・自分も楽しく過ごすという気持ちで活動していかないとダメ

・ボランティアをしたくない、参加する人がいない

・ボランティアと仕事でやる人の意識の差

→ボランティア（地域貢献）をしたことの成果を感じられない

→ボランティアには枠や限度がない

・立ち上げても一人ではなかなか維持できない

○行政の対応

・市が絡むと決まりを押し付けられて面倒、気楽に催しができない

→現実にそぐわない制度、ルールを変えていかないといずれなくなる

・目的が異なるせいか、課によって言うことが違う

→行政が入ると邪魔な時がある

・職員は仕事の範囲でしかしない

→職員は成果が必要になるか

・地域にお金はない

→制度があっても手続きが煩雑で利用しづらい。

→3ヶ月で 9,000 円もらうのに申請が大変、対応も遅い

課題解決の方向は？

○出る機会、場をつくっていく

・食事処を作る

→場所があれば、来て食べてもらう

・お弁当配達などで見守りにつなげる

→77 歳以上の老人の見守り運動

・月１回の公園清掃活動

→短期で目的があれば集まりやすい

・市の助成を受けるより、参加費をとって開催する方法もある

・依頼者のところへ行くことで解決できる活動もある

○情報の収集と活用

・地区の中で人材バンクを作ったらどうか

・課同士の情報を共有し、何が大事かを理解し、目的を統一する

・流山市は HP を開くと「自治会に入ろう！」と出る

Ａグループ

④深沢地域
日　時：令和元年（2019 年）８月６日（火）　14：30～16：30
会　場：深沢学習センター・第３集会室

地域での問題、課題

・地域がつながっていると、事故、防災の抑止力になる
・要支援者の存在を公表することは（本人の）合意がいる。
・向こう三軒両隣のおつき合いがない、助け合いがない
・自分から声を出して挨拶をする人が減った、親がきちんと教えていない
→「8・3運動の会」登校8時下校3時頃に通学路で子どもの見守りと声かけ。（品川区の例）
・問題をたらい回ししない地域力
→女性主体の「助け合いの会」は 27 年目、今はポスト整理、見守りなど多い
・「地域を支える会」地域の困り事、樹木の繁茂、ゴミ出し、買物等、誰が支援するのか調査アンケート
・30 代の認知症の人で、通勤車内で「私は○○で下車します。教えて下さい」とのパネルの人がいる。

○防災、防犯の地域力を高める

・防災用の安否確認 MAP を作る、家族とも共有
→緊急時に確認すべき人を決めておく
・ヘルプマークの人に何をお手伝いしたら良いのかわからないし声をかけにくい
→ヘルプマークではなく具体的なことを示すカードが必要

地域情報をどうやって共有していく？

○人の交流、情報共有

・福祉相談員と民生委員との接点、交流の促進
→自分の地域にどんな人がいるか知る努力も必要
・包括、民生委員、他グループとの情報共有を促す
→障がい者、相談員、専門員とをつなぐ、そのための情報共有が必要
→地域の情報を町内会報で知らせるようにしている（民生委員）

視覚障がい者の視点

○コミュニケーションがとりにくい

・当懇談会情報は広く広報されていないし、もちろん点字化されていない
→点字が読める人は10%くらい、全盲、後発生など症状によって違いがある
・地域の相談員、民生委員が誰かわからない
→市は教えてくれない
・民生委と障がい者と相談できる機会をようやく作った、まだ1回だけだが
・地元の信号一つが渡れない、そういう小さなことのお手伝いが欲しい
・「迷惑をかけたくない」と言う気持ちがある一方で、手を借りることが必要なこともある
→視覚障害者たちへは声かけが何より、声を出して挨拶して欲しい、学校でも教えて欲しい
・要支援者リスト作成には何が必要か。

民生委員の役割と情報共有

・民生委員はつなげる役、解決できるところへ持って行く
・町内会役員会に毎月民生委員が参加している
→民生委員を町内会が後押ししている地区もある
・地域で民生委員だと目立つように心掛けている、相手が声をかけやすいように
→頼りないのか不信感か、なかなかドアを開けてくれない
→他人の手がかかることに悪いと思っている
・民生委員は包括とつなぐ役割も
→相談を受けてはじめて活動
→情報共有に個人情報条例の壁がある
・要支援の方の家族（子ども）は、地域や民生委員とのつながりを知らない
→子どもは自分の親は大丈夫と思っていることが多い
→障がい者と民生委員が互いにどこにいるかわからない
→困りごとを持っている人の情報が知りたくても見えない
・高齢者は困った時に包括や民生委員に相談しに行くことが多い。
→要支援の方は民生委員を知らないことが多い
・介護保険制度ができてボランティアの利用が減った

何が必要？

○声だし挨拶のある地域コミュニケーション

・急な困りごとをちょっとした電話一本で相談できる
・若者認知症の人の例「求めるもの」を書いてあるカード、パネルの掲示、提示
・地域ボランティア活動のお礼の例　300 円/1時間
・介護保険が降りるまでの隙間を埋めるお手伝い
・子どもたち、若い人にサポータ養成講座
→コミュニケーション奨励～高齢者や若いお母さんたちに
・「助け合いの会」など緩やかな会を設定する
→助ける側と助けられる側が相互に互助会的になっている関係
→情報、制度、意識の壁を越える地域の力と人

Ｂグループ

地域の困りごといろいろ

・認知症がかった方からお金を持ってないので杖を買ってきてほしいと言われた
・警察や消防署からの情報が入りにくく、連携しにくい
→地域の見回りなどについて、住民から問い合わせが入る、あらかじめ情報共有してほしい
・深沢のバス停新築後道路がガタガタして困る。

「足」の確保

○交通の便
・バスの便がないため高齢ドライバーが減らない
・坂上にある 200 世帯の住宅地はかなりの高齢化で車なしでの生活は大変
→バスの便が悪く、車の運転も止められない
・日帰り入浴できるお風呂券、そのためのバス券のサービスを再開する
→ミニバスを循環させてほしい

場の確保

・借りやすい部屋が欲しい。
→自治会館などの施設の空き状況をネットで予約管理できようにする（初期費用、運用費がかかるが）
・建物がなかったので公園でやったところ参加者が多かった（特に男性）。

「相談」につながらない窓口

○「困っていること」につながらない
・なんでも相談してくださいと言ってもなんでも解決できる訳ではない
→助けを求めている声が十分拾えていない
・相談してほしい人が相談に繋がらない
→役所に相談することかどうか判断がつかないことがある
・相談者の困り事と支援者の困り事が一致していないことがある
・包括は 65 歳以上の高齢者対象のため、子どもや障害のある方の相談にのれない
・相談所そのものの環境を整える必要がある
・相談したいことがあっても、家族の反対で相談できないこともある
・プライドの高さが困り者、なかなか繋げられない
↓
・一人暮らしの届け出、情報の把握
↓

○相談窓口の環境整備
・相談を受ける窓口は、となりの話が聞こえたり、顔が見えないようにしてほしい
・「生活 110 番」などでのワンストップ窓口をつくる
→行き先窓口を教えるなど

求められる複合的な支援体制

○民生委員の体制強化
・民生委員が知られていないので自治会などで顔出しの機会を多くする
→民生委員を広く公募する

○総合相談窓口の整備を
・総合相談窓口の開設を一刻も早く進める
→支所にも身近なワンストップ窓口を
→複合的課題の対応ができるワンストップへ
・市民が行きやすい場所、相談コーナーを作る
→人気店や準公共施設で定期的な相談窓口を作る
→専門員ではなく、方向を教えてくれる相談コーナーを
→地域の身近なところに医療福祉の知識、経験のあるコーディネーターを置く
・地域のスーパーや人気のお店に定期的に相談に乗ってくれる人がいると良い
→保健士など医療と介護の両方を看れるような人材が地域にいると良い
↓

○ネットや電話も活用
・地域情報の共有システムを作る（地域社協などで）
・なんでも 110 番の開設
・情報（空き部屋情報など）を得られるようなネットシステムを作る
・シングルマザーや周りに助けがない人で窓口に相談に来ない人の声を拾う方法を検討

○計画目標の設定
・計画目標は評価をしやすくするために数字などを明確にする

Ａグループ

⑤大船地域
日　時：令和元年（2019 年）８月８日（木）　18：00～20：00
会　場：大船学習センター・第 3 集会室

地域の様子が変わってきている

・専業主婦の多い時代は子どもつながりの町内だったが今は転入者が多い
・男性の一人住まいは亡くなってもわからないことがある
・独居老人はごみ問題や急に状態が悪化することもある

地域福祉と町内会と問題点

○顔と仕組みの見える町内会へ

・地域にあった地元の福祉の取り組みが必要
→地域の問題を行政のどこへもって行けば良いか、わかりやすいものをつくる
・高齢者、独居老人の情報を把握し、町内会が行政につなげている
・近所付き合いの少ない地区がある、転入者、U ターン、I ターン家族が多い
・「助っ人の会」で 40 年も障がい者の送迎をしている
・町内会の班長制度が半年交替なので地域につながらない。
・家族葬が増え、無くなった方の情報が出て来ない
町内会に入らないアパート住民も多い。情報を把握できない。

○要援護者リストのあり方、扱い方

・要援護者リストは市が勝手に作ったもので受け取っていない
→避難所運営マニュアルは地域が先行して作成、市は後追いになっている
・市の避難所が近くにないなど実情に合っていないものが多い
・障がい者情報は家の中に入り込んでいて把握しにくい、結果要援護者リストに反映されない
→家族は知られたくないから、知らせないこともある
・障がい児を公に見てもらうことが当たり前と言う若い親もいる
→「子どもを殺して自分も死ぬ」という問題を抱える親もいて心配
・施設、学校が地域にあると「障がい」が見えるが、近くにないと見えない。

↓

○わかりやすいものを

・防災リストは冷蔵庫に貼って、だれもが見やすい解りやすいものを
→わかりやすい避難場所の明示

地域の情報を共有する場・機会を整える

地域の状況の把握

○どうやって支援体制を整える？

・昨日まで元気でも避難行動困難になる老人
・町内会と地域福祉関係者の高齢化
・家の中に沈む高齢者と障がい者
・公助、共助、自助の住み分けと全戸訪問
→地域の力だけで良いのか？
・おせっかいおじさん、おばさんのような存在も必要

↓

・困りごとの高齢者に出向いて話を聞く
→訪問調査で要支援 MAP をつくる

活動の場の整備

○活動拠点がほしい

・困り事があっても、町内会や自治会に話しに行かない
・老人が回覧板を持ち回れないと市役所に伝えている人もいる
・今泉は地域が広いため、身近な場所に会館がない
→地域の細かな情報をまとめる場、機会が欲しい

問題解決に向けて必要な取り組みは？

○市民と行政の関係改善

・市民の地域活動に市が指導、協力するより良い関係を作る
・防災リストの作成と個人情報管理の問題など、タテ割り行政の問題解決も必要

↓

○わかりやすい窓口情報と体制整備

・問題が起きた時にどこの課へ行けば良いのか
→わかりやすい行政の窓口情報
・包括の活動がまだ充分に知られていない

↓

・市がワンストップで受けて振り分ける体制
→担当窓口を呼んで同席させるようなしくみ

Ｂグループ

活発な町内会、民生委員の活動

・市社協で「近所の団らん助成事業」をスタートした
→・5件の実績があり、6件目が申請されている
→3ヶ月ごとの補助ではダメ、せめて1年にしないと継続性がない
→保護司、青少年指導員が誰なのかわからない
・一方で民生委員を知らない自治会長もいる
→自治会長と民生委の情報共有が難しいこともある

交流があり、情報も共有

○工夫しながら活動している

・炊き出し訓練で地域の世代間交流を促している
・公園や個人の駐車場などご近所でイベントを実施
・社協だよりに毎回民生委の名前と連絡先をのせている。
→民生委の時はドアを開けたままで話したり、待ってもらったりした
・障がい者の方がお寺の掃除などをしている

↓

○入りやすい、開放感のある窓口

・町内で協力して監視したことで防げたことがある
・たらい回しにならない相談体制を目指している
・入りやすさ、何をしているか見える、開放感のある相談窓口にしている。
・認知症のため正しくゴミ捨てができないことを民生委員に相談したら、介護や親戚につないでくれた

↓

・どこに初めに相談すればよいか、定期的なイベントで促す。
移動販売の車が来る。
町内会で月1回程度プラゴミを拾う活動をしたいと考えている

民生委員の支援体制の整備

○民生委員の層が厚い

・銀行、病院の付き添いを民生委員がしていたが今は無くなった
・民生委の OB 会があり、現在でも飲み会や旅行をしている
→民生委 OB に支援をお願いする

一方で広がらない町内の活動

○多様な地域の問題

・お祭りをしても、何をしても騒音の苦情がくる
・センサーライトにびっくりするという苦情があるが困難
・BBQの騒音などの苦情がくる、直接関わりたくないか

○ボランティアのハードルが高い

・最初はサポートするが、すぐに手をあげてしまう
・ボランティアの有償、無償の差配が難しい
・もめたくないとのことでリーダーのなり手がない
・ゴミステーションを見回ると、地域の人ともめてクレームが入ることもある
→ゴミ捨てに関して注意がしにくい、腕章をつけていると少しはマシ

○求められる多様なサービス

・介護保険に満たない人のサービスを包括で始めたが追いつかない
・独居老人の買い物支援はヘルパー業務だが、人手不足で対応してくれない事業所が増えている
→独居老人の買い物支援が必要、ボランティアで
・カラスの死骸や蜂の駆除などいろいろな相談を受けている（社協）ので対応していきたい。

求められる「場」の整備

○空き家活用など場の確保

・民生委に頼むと対応してくれるが、ケアマネではできないこともある
・簡単に使える場所が減っている、20 人収容も大変
・オープンサロンは結構大変
→場があっても家から出ない、出られない人がいる
・足がないなど物理的、心理的な問題で買物などに出にくい。

地域でいろいろな「入り口」を用意する

○気軽なイベントをキッカケに/笑顔が大事

・地域で昔遊びの会などを開催
→子どもに碁を教えたい高齢者もいる
・交通費くらいは出るよい
→バス片道 270 円×2=540 円で1食たべられる
・移動販売車がサロンに立ち寄ると集まりやすい
・アルミ缶を集めて資金確保

Ａグループ

⑥玉縄地域
日　時：令和元年（2019 年）８月８日（木）　14：00～16：00
会　場：玉縄学習センター・第２集会室

金も場所もないがいろいろ企画する

3･11 をキッカケに活動開始

○山の上の三地区のつながりが希薄だった

・コミュニケーション不足をカバーする集まりを呼びかけ
→地震、防災を巡る疎遠化、孤独化に対応し地域に安心安全の情報共有を図った
・情報、お知らせをポスティング、町内に入って扉を叩く
・予算がなく場所がないから公園ではじめた、青空だから雨天は中止
・いろいろ提案してみたが健康第一、ポールウォーキングが定着

↓

○一人で頑張ってコミュニケーション、工夫する

・山の上は戸建て多く、町内でうまく連携できない
→孤立傾向の老人をつないだ
・イベントの中味を面白く、参加を募る
・企画は予算がないので制限される
→「ちょこっとお手伝いサービス」など企画立案中
・余計なことをやるな！との声もあったが、どんどんやる

↓

○広がる活動

・地区社協に入って子どもと自然のものを利用した活動をはじめた新しい人がいる

湘南病院を取り巻く歴史ある大型マンションの取り組みと広がり

○鎌倉ロジュマンの現状

・530 所帯 1,100 人の民生委員、アンケートを実施した
→全住民にニーズ調査を行い 98%の回答を得た
→結果、住民状況を把握している
・管理組合、自治会、老人会と民生委員が連携し、情報交換ができている
→自治会に防災班、耐震班など作っている。
→管理人男性４人、コンシェルジェ女性３人、いつも誰かがいて情報が集まる、老人、子どもも来る

↓

○解決に向けてのアンケート調査を企画中

・チラシの手配りで顔の見える関係、信頼関係を作る
→ゴミ出し、独居老人などにも対応、1,100 人のうち 165 人が独居
・マンション中庭に公園、屋根のあるスペースに大人用遊具を設置

↓

○近隣にも広がっている

・取り組みは近隣住民にも広がり、2,000 人規模が参加するお祭り企画
→マンション同士がつながり、行き来している
・イベントの中味によって学区内外の子どもたちの交流にもつながっている
・中庭の公園でグランドゴルフなどを開催
→参加しやすいイベントを企画し、若い世代にも来てもらう、参加してもらう
・民生委員のやっている Cafe、サロンなど居場所を作ると後継者にもつながる

それでも課題は山積

○縦割りの弊害

・65 才以上の独居老人増えている
・コンシェルジェから民生委員になった
→包括と行政各課へ、行政のタテ割りが問題
・いつでも誰かが話しを聞く仕組みを継続していく
→うつ病や精神疾患など相談事が多くなって来ている
・ガーデンホーム 235 所帯、700 人余り
→自治会役員が固定化、後継者がいない
・自治会を手伝ってくれるのは老人が多い
→グランマークスは若い人が多くいろいろ手伝ってくれる
・後継者の問題は大きいが、多少のあてがある。

多様な動きでサポート

○行政のタテ割りにどのように対応していく？

・地区社協にボランティアリスト、広く活用したい。
→要支援者の登録をもっと正確に
・民生委員にサポートする人がいると良い。幅が広がる。独居老人をもっとサポートできる。
・山の上の戸建て地域も、大型マンション地域も問題解決のタテ割り行政の窓口問題に行き当たっている。

Ｂグループ

大事なコーディネーターの役割

・地域の生活支援コーディネーターがついてよかった
・民生委員や自治会長が代わった時にコーディネートしてくれてよかった

予算がない、人材がない

○自治会に今以上に何かをする人材、資力はない

・現職が高齢化している
→地区の役員を受けてくれる人がいない
→地域に持ち帰ってもできる人がいない
・これまでと同じ業務量では受けきれない
・地域へ下ろしてるだけで、市の下請けではない
・全部地域に振ってしまうのが問題、押し付けられるばかりで反映されない

↓

・大切な取組、活動と言いながら相応の対価（金銭）が支払われない
・バイト代が出ても役員のなり手はない
→取り組みや事業に対するお金が必要
・民生委員にきちんと給与を払うなどしないと、ボランティアの協力は難しい。
・役割分担の内容、あり方を考え直す時に来ている

求められる気軽な相談窓口

○どこに行けばよいのか？

・相談窓口（包括、法律相談、カフェ）はあるが活用しきれていない
・なんでも相談できる窓口も社協にあるが気軽さがない
→人に聞かれてしまうような雰囲気のところもある
・町内会にいっても案内してくれない、情報不足で何もできない状態

↓

・民間のコールセンターは5～6時間も待つことがある
・活動費、事業費、人件費のお金が足りないが市にいっても変わらないと諦めている
・ふれあい懇談会で市長に伝えているがすすまない

問題のある地域懇談会の設定

○周知が遅い

・懇談会の周知の期間が短い、もっと早くすべき
→人が集まるイベントなどに日程を合わせる工夫ができたはず
→困っている側の意見を聞くというスタンスが見られない
・懇談会の持ち方に疑問、わからないことが多すぎる
・地域福祉計画と言われてもよくわからない
→何をしたら良いのかわからない
・意見聴取の方法が悪く、意見が反映されないので諦めている

↓

・市の具体的な提案を提示されると考えやすかった
・市の担当は異動していくので、良い計画にならない
→計画をどうすすめるのかがわからない

地域の多様なサポート体制が必要

相談窓口の敷居を下げる

○気軽な窓口

・コールセンターの整備
・多様な対応ができるなんでも相談窓口
・相談コーナーでコーヒーやお菓子をだしてみる

民生委員の取り組み継続

○民生委員の活動をサポート

・民生委のサポーター組織（制度）を作る（横須賀で行っている）
→支援員、協力員を作り、ニーズをキャッチする
・民生委、町内会の活動に予算をつける
・民生委を安心して交代、引き継ぎできるような仕組みづくり
・入院者のお見舞いをする地域の顔見知りの人を作る仕組み

↓

・人づくり、体制・仕組みを再検討する
・地域ごとの仕組みを考え直す

２．昨年度行われた地区懇談会での意見との対応表

昨年度社会福祉協議会がかまくらささえあい福祉プラン作成の際に、行われた地区懇談会での意見と今回の地域懇談会からの意見を照らし合わせるため、対応表に整理しました。

1. 担い手について

	2018 年度地区懇談会	2019 年度地域懇談会
現状 ・ 問題点	**①担い手不足** ・60～70 代が多く自治体役員のなり手がおらず今後が不安である ・マンション役員は１年交代なのでやってくれるが、その他のなり手がいない ・今活動している方たちは高齢化し、新たな担い手を探す必要があるが、６０代の方々は仕事をしている人が多く担い手不足 ・６０歳を過ぎても働かなければならない人がおおく、平日の昼間などのボランティアや町内の役員などは裕福な人しか出来ないのかとの話にもなってくる ・自治会役員や子ども会役員のなり手がおらず、役員にも高齢化が進んでいる ・自治会の担い手が高齢者しかいない。民生委員、子供会、老人会が成り立たない。このままでは地域コミュニティが崩壊する ・現職が若い人を引っ張っていかないと、尻すぼみになる ・子育て世代は子どもが小さいうちは地域の行事や学校行事に参加するが、大きくなるにつれ地域との関わりが減っていく **②住民や組織の役割があいまい** ・担い手の過重負担を避け、住民、行政、市社協、包括の役割分担を明確にする ・生活支援コーディネーターが行政地区に配置され、その方に聞けば大体その地域の事が分かる様になったらとてもありがたい ・団塊の世代の方々が色々と頑張っており、地域全体に感謝する気持ちが大切。評価することも大事、声掛けも大事。 ・自治会、町内会の活動の周知やアピール方法を考える必要がある ・若い世代との世代間交流はお祭り等の機会を利用して進めていく ・特に男性は５５歳くらいから戻る準備をする必要があると思う	**①人材不足、人材の高齢化** ・地域参加、社会参加できる場、チャンスが減っている ・後継者がいない、地域デビューの方法が分からない ・民生委の仕事が多すぎる、まじめな人に集中している ・地域活動の担い手が不足している ・正規で働いている人は地域活動への参加は難しい ・役員、担当者は欠員だらけ、子ども会やボランティアグループ役員のなり手が少ない ・地域との関わりが活発なのは、子どものいる家庭 ・活動を知らない人が多い、知るソースが少ない ・３人の所を３年間２人でやっていて、後任者がいない →地域活動を支える高齢の方の負担が大きい ・コミュニティが希薄になってきた ・若い人たちの関心が少ないような気がする。 **②情報共有、連携がうまくいっている地域もある** ・民生委として困った時の窓口は包括 ・民生委が誰か分からないので相談できない ・包括のアウトリーチ型の支援スタンスが良い
課題	**①参加の機会をつくる** ・特に定年直後、60 歳以降の方々が参加、活動しやすい場面、環境を整える。 **②役割を明確にしていく** ・住民、行政、市社協、包括などの地域内での役割を明確化していく。 ・関係各者の定期的な話し合いにより情報共有を図っていく。	**①多彩なテーマ設定で参加の機会をつくる、増やす** ・男の料理教室、その後の呑み会参加、サロンなどの実施 ・まつり等子どもを含めた参加しやすいイベントを開催し、顔をつなぐ機会を増やしていく **②地域情報の共有化と役割の明確化** ・横断的な話し合いの場をつくる

2. 活動場所について

	2018 年度地区懇談会	2019 年度地域懇談会
現状 ・ 問題点	**①活動拠点がない** ・市民が活動する場・集える場を作ってもらいたい。市役所を移転する際はコミュニティスペースを設けてもらいたい ・地区社協の拠点が欲しい ・７０代の方々が色々な活動をしている。しかしその活動を繋ぐ場所がない。その為、空き家を活用して高齢の方が集まって噂話をしながら町のことに関心をもっていく。そこに若い方が入って繋がりをもっていく。その様な場所が歩ける範囲に何か所かあるといい。その様な場所に空き家を活用出来たらいい ・空き家を活用してかもめサロンをやっている	**①活動する場所がない** ・イベントの開催場所がない ・地域の活動拠点、場がない、あっても使いにくい ・見守り、その他の会合の場所がない ・施設に駐車場がないので車が使えない ・参加料を取ると人が来ない ・空き家を活用していく →住んでいる家の空いている部屋を貸す方がよいかも →自治会館が欲しい、集まる、話す、たまり場として
課題	**①地域内交流を促す拠点の設置** ・空き店舗、空き家、空き部屋などの活用促進に向けたコーディネートの仕組み、補助金等の整備	**①活動の場、機会をつくる** ・空家等の活用によりサロンや食堂などを活動の場にしていく ・子どもの活動、見守りを通じた地域とのつながりを拡大していく

3. 地域の活動について

	2018 年度地区懇談会	2019 年度地域懇談会
現状 ・ 問題点	**①近隣住民等とのコミュニケーション不足** ・無縁社会の中でワンルームのマンションはコミュニケーションが取れない。誰が住んでいるのか分からない ・一人暮らしの方は精神的に不安なこと以外困りごとはないと思う ・家族間でのコミュニケーションが取れていない事を感じることがある ・昔は子どもも多くて子供会があり連携をとって様々なイベントが出来たが、子どもが減ってきて子ども会が無くなってしまった。親同士が接点を持てるところは幼稚園などになってしまうため、隣接する地域での情報交換は薄いと思います ・ゴミ屋敷があるが周りの人が見て見ぬふりをしている。自治会の存続、コミュニティの維持が一番の課題 ・地域の安定や交流がない中で人の入れ替わりが激しく、大きい家が細分化されてきて核家族化してきており、その中で高齢者が孤立してきているのが活動している中で一番気になる ・雨戸の開閉や食事のこと等もっと身近なことで困っている方も多い。ちょっとしたお手伝いがあれば、まだまだ地域で生活できる人もいる	**①活動が活発な地域もある** ・活動の自主グループを作った ・個人宅の駐車場にベンチを設置 ・困った時は、今の自治会のメンバーが話しを聴いてくれる ・夏祭などで他の団体と連携している ・場所（地区）によって世代交代がすすんでいる ・子ども、高齢、障がい等の分野を越えてのフォローがある **②入口、キッカケが必要** ・きっかけが必要 ・老人会、子ども会、自治会をつなぐ組織が必要とのことであいあいの会を始めた、夏祭りは合同で開催 ・若い人（特に現役男性）の参加しやすい環境をつくる。 ・話す機会が減り付き合いのない隣近所、独居高齢者が多い ・高齢化により自治会の役員ができなくなる。 ・高齢者は急に動けなくなることがある ・自治会役員の高齢化、回覧板の持ち回りも大変 ・班長は交替するがボランティアはずっと続くので大変 **③多様な活動が地域内交流を促している** ・子供会、老人会、魚釣り大会、体操教室などを通じて、若い世代の参加を促している ・高齢化しているが、弁当の配達をしている人がいる ・規約なし、会計なし、面倒なことを外して活動している ・出前コーヒーを各地域へ提供している ・予算も場所もなく公園ではじめた、青空だから雨天は中止 →健康第一、ポール、ウォーキングが定着
課題	**①地域に開かれた地域内のイベント等の開催** ・多様なイベントの実施により、子どもや高齢者の参加を増やし、少しずつお顔見知りを増やしていく	**①多様な取り組みで地域活動を広げよう** ・子どもつながり、イベントで親同士もつながる ・誕生日、敬老の日のプレゼントをキッカケにする ・ボランティアバンクをつくる ・小学校や学童のおやじの会との連携 →若いお父さんが出てくる

4. 情報の共有について

	2018 年度地区懇談会	2019 年度地域懇談会
現状 ・ 問題点	**①地域以内の情報共有が不十分** ・民生委員と自治会役員がコミュニケーションとる必要がある。しかしプライバシーの問題がありうまく出来ない ・高齢者世帯が増えてはいるが、個人情報やプライバシーの関係で、隣近所以外の把握が難しくなっている ・活動される方の趣旨と地域のニーズがマッチングしていないことがある。その為、そのニーズを的確に捉えて情報を共有していくことが大切だと思う ・個人情報も大切だが、顔見知りや、気配りをする人が大切	**①情報も縦割り** ・行政は地域活動情報をあまり持っていない、目が地域を向いていない、社協のほうが良く掴んでいる ・民生委員はつなげる役、解決できるところへ持って行く →民生委員を町内会が後押ししている地区もある ・地域で民生委員だと目立つように心掛けている、相手が声をかけやすいように →頼りないのか不信感か、なかなかドアを開けてくれない ・民生委員は包括とつなぐ役割も →情報共有に個人情報条例の壁がある ・要支援の方の家族（子ども）は、地域や民生委員とのつながりを知らない →障がい者と民生委員が互いにどこにいるかわからない →困りごとを持っている人の情報が知りたくても見えない ・高齢者は包括や民生委員に相談しに行くことが多い →要支援の方は民生委員を知らないことが多い ・介護保険制度ができてボランティアの利用が減った ②大事な人的な交流 ・福祉相談員と民生委員との接点、交流の促進 →自分の地域にどんな人がいるか知る努力も必要 ・包括、民生委員、他グループとの情報共有を促す →障がい者、相談員、専門員とをつなぐ、その情報共有が必要 ・プチボランティア、子どものつながりを活かしていく →地域で作る市民レベルの人材バンク ・気軽に「できます」掲示板 →「こういうことができる」等の人材情報の提供。
課題	**①地域内情報の共有の仕組み、体制の構築** ・関係各者による定期的な話し合い、懇談会の開催等による情報共有の場、機会の設置	**①ネットや電話も活用し若い世代にもアピール** ・地域情報の共有システムを作る（地域社協などで）→なんでも 110 番の開設 ・シングルマザーや周りに助けがない人で窓口に相談に来ない人の声を拾う方法を検討 →SNS などを活用した多様な情報発信

５．災害時について

	2018 年度地区懇談会	2019 年度地域懇談会
現状 ・ 問題点	**①どうする？要支援者支援** ・大災害が起きた時、要支援者へどう対応してよいのか分からない ・独居高齢者が増加し災害時どうするかという課題はある ・災害時は自助を基本に、津波や災害時はまずは道路に出てもらうよう声かけをしている ・災害時は民生委員も被災者になる。要援護者支援の名簿もあるが、登録しているからといってすぐに助けが来ると思われるのも困る **②要援護者名簿の扱い** ・災害時要援護者名簿を受け取っている地区と受け取っていない地区がある ・災害時避難行動要支援者に対する支援方法が問題となっている。市の防災課は該当者名簿を町内会または民生委員に配布しその後の対応については勝手にやれ、とそれぞれの立場で対応願いたいという事になっている。しかし支援者側も高齢者が行う状況になるので、この辺の対応が大変難しいと苦慮している。もう少し何か関係機関と連絡体制を取って進めることが出来ないか ・災害時の要援護者支援について、助ける人、助けられる人、調査する人が密に連携を取っていかなければいけないが、制度が漠然としていて役割が明確化されていない	**①要支援者の登録をもっと正確に** ・要支援者の存在を公表することは（本人の）合意がいる。 ・地区社協にボランティアリスト、広く活用したい。 ・要支援者、一人暮らし高齢者リスト作りも丸投げ、そして機能していない →リストが災害時の情報活用に活かされていない →防災マニュアルは地域が先行して作成、市は後追いに ・障がい者情報は家の中に入り込んでいて把握しにくい、結果防災リストに反映されない →家族は知られたくないから、知らせないこともある ・障がい児を公に見てもらうことが当然と言う若い親もいる →「子どもを殺して自分も死ぬ」という問題を抱える親もいて心配 ・施設、学校が地域にあると「障がい」が見えるが、近くにないと見えない。 **②わかりやすい使いやすいものを** ・防災リストは冷蔵庫に貼って、だれもが見やすい解りやすいものを →わかりやすい避難場所の明示 ・地震、防災を巡る疎遠化、孤独化に対応し地域に安心安全の情報共有を図った ・情報、お知らせをポスティング、町内に入って扉を叩く
課題	**①関係組織が連携した地域での要支援者支援** ・地域内での要支援者支援活動、体制の確認、共有 **②要援護者名簿の取り扱い、対応の見直し、検討** ・上記①に対応した名簿の扱い、対応等の再検討	**①わかりやすく伝えて共有を** ・高齢者にもわかりやすい災害情報の発信を促す **②要支援者への対応と災害時の対応体制の検討と確認** ・行政内部での要支援者対応の検討による対応体制の確認 ・要支援者対応案の地域との共有と地域ごとの対応、対策の確認、検討

6. 市・市社協について

	2018 年度地区懇談会	2019 年度地域懇談会
現状 ・ 問題点	**①市、市社協の対応、体制について** ・役所としてここまでやるから自治会町内会はここをお願いします、という形でコミュニケーションが取れるとよい ・行政のかかわり方によって地域の状態が違ってくる。カフェ玉縄では支所が協力的で地域の中に自分たちも入っていくというスタンス →地域活動に対して行政のバックアップがいかに大事かということを痛切に感じている。市も縦割りではなく柔軟な対応が求められる ・地域福祉コーディネーターは色々な事をやらなければならないので、最低でも３年は同じ人がやらなければいけないのではないか ・社協も地域に出向くことによって色々なことが見えてくるはずだが、ここ何年間かは殆どなかった。社協は専門職なので協力を仰ぎたい ・子ども会も町内会も人が入れ替わる。社協の専門員の配置はよい取り組みだが、継続的に人が配置できる仕組みが欲しい ・災害時の市社協、地区社協の対応体制は出来ているのか ②総合相談窓口の設置 ・高齢、障害、児童といった分野にとらわれず総合相談ができる窓口 ・市社協は横の連携体制が出来ているが、困っている方を助けることは市のメニューに基づいて必要な情報を発信してほしい。 ③役割分担の明確化 ・社協又は市は、自分達でこれは出来るこれは出来ない、ということをきちんと説明しないと、我々は何をしたら良いか分からない ・自治会に丸投げではなく、ここまでやるからあなた方も協力を	**①相談窓口が冷たい** ・親身になってもらえる窓口、相談を受ける側が横につながっている ・窓口の人が冷たい、話をしっかり聞いてくれない →気軽に相談できる窓口、優しい対応、対応フローの整備 →問題整理、引き継ぎシートを社協も作りはじめている →助けを求めている声が十分拾えていない ・相談者の困り事と支援者の困り事が一致していないことがある →包括は高齢者対象のため、子どもや障害のある方の相談にのれない **②相談窓口の環境整備** ・窓口はとなりの話が聞こえたり、顔が見えないようにしてほしい ・「生活 110 番」などでのワンストップ窓口をつくる ・地域のスーパーや人気のお店に定期的に相談員が配置される **③敷居の低いワンストップの相談窓口を** ・市がワンストップで受けて振り分ける体制 →担当窓口を呼んで同席させるようなしくみ **④周知の時間が少なかった地域懇談会** ・懇談会の周知の期間が短い、もっと早くすべき →人が集まるイベントなどに日程を合わせる工夫ができたはず →困っている側の意見を聞くというスタンスが見られない ・懇談会の持ち方に疑問、わからないことが多すぎる ・地域福祉計画と言われても何をしたら良いのかわからない ・意見聴取の方法が悪く、意見が反映されないので諦めている
課題	**①市の対応体制の見直しと職員の意識の醸成** ・共生社会、地域まるごとというのであれば、まずは市役所の職員自身が意識改革をすべきではないのか ・もっと広く地域住民の意見を聞く場を設けても良いのではないか	**①入りやすくわかりやすい総合相談窓口の設置** ・総合的、横断的なマネージメント機能があり、市民情報も持っている複合的な窓口→一定の権限を持ち、法的な機能も備えている ・支所にも身近なワンストップ窓口を→課題の対応ができる窓口へ ・コールセンターの再整備 ・相談コーナーでコーヒーやお菓子をだしてみる ・医者、弁護士他専門職との調整、協力体制を組む **②さらにわかりやすい行政計画や取り組みの進め方** ・市の具体的な提案を提示されると考えやすかった →計画をどうすすめるのかがわからない